

第十堰環境調査 調査速報

(冬期調査)

平成17年 1月

徳島河川国道事務所

1. 調査目的

本調査は「よりよい吉野川づくり」に向けた今後の方針（平成16年4月27日）に沿った調査の一環であり、今後の第十堰補修検討等の基礎資料とするものです。

2. 調査区域

吉野川 第十堰及びその周辺



3. 調査実施概要

調査項目	冬期調査実施日
鳥類調査	平成16年12月15・16日
小動物調査(哺乳類)	平成16年12月16・17日

4. 調査結果概要

調査項目	確認種数
鳥類調査	10目23科38種(特定種2種)
小動物調査(哺乳類)	3目4科5種(特定種なし)

5 . 調査内容

a) 鳥類調査

調査区域における鳥類相の把握のため、一箇所に留まって鳥を記録する定点記録法、一定の速度で歩行しながら鳥を記録するラインセンサス法による調査を行いました。

あわせて、調査範囲内を任意に踏査し、「繁殖の場」、「埒」として利用されているかどうかを確認・記録しました。



定点記録法の調査実施状況



ラインセンサス法の調査実施状況

また、下記に示す基準に該当する鳥類については、『特定種』として、確認位置、確認環境をあわせて記録しました。

特定種選定基準（鳥類）

選定対象	特定種選定基準資料
種・個体	国，県，市町村指定の天然記念物
種	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』 の国内希少野生動植物種の指定種
種	環境省編（2002）『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 2 鳥類』掲載種
種	徳島県（2001）『徳島県の絶滅のおそれのある野生生物 - 徳島県版レッドデータブック - 』掲載種

b)小動物調査(哺乳類)

調査区域における哺乳類相の把握のため、目撃法・フィールドサイン法調査、トラップ法調査、夜間無人撮影装置による確認調査を行いました。

目撃法・フィールドサイン法調査

調査範囲内を任意に踏査し、生体の目撃やフィールドサイン(足跡、食痕、糞、脱皮殻等、動物の生活痕)の確認により、生息種を把握しました。

確認した生体及びフィールドサインは、大きさ、色等の特徴を確認地点の様子とともに調査票に記録し、写真撮影を行いました。



目撃法・フィールドサイン法調査実施状況

トラップ法調査

目撃、フィールドサインによる確認が困難であるネズミ類を対象としてラットトラップ調査を、イタチ類を対象としてカゴワナ調査を行いました。また、モグラ類等を対象としたモグラトラップ調査を行いました。

・ラットトラップ調査

主にヒミズ、ネズミ類を対象とし、ラットトラップ(シャーマン型トラップ)を設置した。誘因餌には生ピーナッツ等の餌を使用しました。トラップは調査区域内の3地点に設置しました。



ラットトラップ設置状況

・カゴワナ調査

主にイタチ類を対象として、カゴワナを設置しました。誘引餌には魚肉ソーセージ、鶏肉（生）を使用しました。トラップ設置地点は、ラットトラップの設置環境と同じ、3地点としました。



カゴワナ設置状況

・モグラトラップ

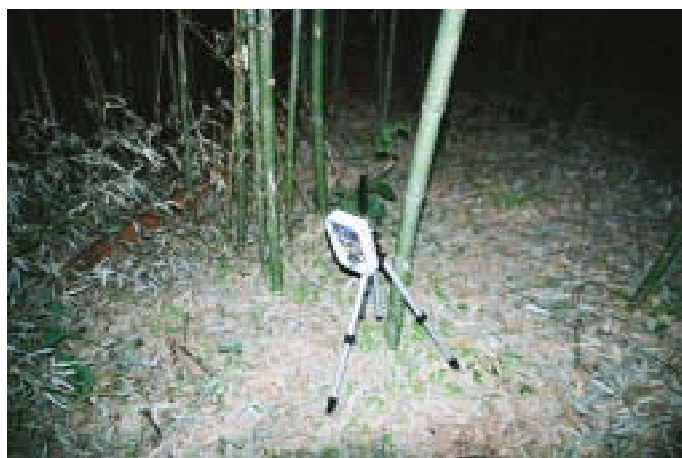
前述の「目撃法・フィールドサイン法調査」でモグラの坑道が確認された箇所にモグラトラップを設置しました。



モグラトラップ設置状況

夜間無人撮影装置による確認調査

昼間だけでは確認困難な夜行性の哺乳類の生息実態の把握のため、前述の「目撃法・フィールドサイン法調査」で哺乳類が頻繁に利用していると考えられるけもの道、小径等が確認された箇所に、夜間、無人撮影装置を設置し、生息種の確認を行いました。



無人撮影装置設置状況

また、下記に示す基準に該当する小動物については、『特定種』として、確認位置、確認環境をあわせて記録しました。

特定種選定基準（小動物）

選定対象	特定種選定基準資料
種・個体	国，県，市町村指定の天然記念物
種	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』 の国内希少野生動植物種の指定種
種	環境庁編（1976）『緑の国勢調査 - 自然環境保全基礎調査報告書』 における「すぐれた自然の調査」対象種
種	環境省編（2002）『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 1 哺乳類』掲載種
種	徳島県（2001）『徳島県の絶滅のおそれのある野生生物 - 徳島県版レッドデータブック - 』掲載種

6. 調査結果

a) 鳥類調査

冬期調査の結果、下表に示す10目23科38種の鳥類を確認しました。特定種に該当する鳥類としては、冬期調査で新たに確認されたカンムリカイツブリ（『徳島県の絶滅のおそれのある野生生物 - 徳島県版レッドデータブック -』（徳島県，2001）で準絶滅危惧種に指定）、これまでに確認されている特定種のうちミサゴ、合計2種があげられます。

注目すべき事項としては、12月には越冬時期に当たることを反映し、冬鳥のオカヨシガモ、ヒドリガモ、コミミズク、タヒバリ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、アオジ等が確認されたことがあげられます。

なお、樹林の利用についてみると、春期～秋期に確認されていた『スズメ及びムクドリによる竹林のねぐらとしての利用』は今回調査では確認されませんでした。

鳥類の確認状況

	目名	科名	種名	渡り区分	行動内容				
					繁殖	採餌	埒	休息	上空
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥					
2			ハジロカイツブリ	冬鳥					
3			カンムリカイツブリ	冬鳥					
4	ペリカン	ウ	カワウ	留鳥					
5	コウノトリ	サギ	ダイサギ	留鳥					
6			コサギ	留鳥					
7			アオサギ	留鳥					
8	カモ	カモ	カルガモ	留鳥					
9			オカヨシガモ	冬鳥					
10			ヒドリガモ	冬鳥					
11	タカ	タカ	ミサゴ	留鳥					
12			トビ	留鳥					
13		ハヤブサ	チョウゲンボウ	冬鳥					
14	チドリ	シギ	イソシギ	留鳥					
15			カモメ	ユリカモメ	冬鳥				
16			セグロカモメ	冬鳥					
17	ハト	ハト	キジバト	留鳥					
18	フクロウ	フクロウ	コミミズク	冬鳥					
19	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥					
20	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	留鳥					
21			セキレイ	キセキレイ	留鳥				
22				ハクセキレイ	冬鳥				
23				セグロセキレイ	留鳥				
24		タヒバリ		冬鳥					
25		ヒヨドリ		ヒヨドリ	留鳥				
26		モズ		モズ	留鳥				
27		ツグミ	ジョウビタキ	ジョウビタキ	冬鳥				
28				シロハラ	冬鳥				
29				ツグミ	冬鳥				
30	ウグイス	ウグイス	留鳥						
31	メジロ	メジロ	留鳥						
32	ホオジロ	ホオジロ	ホオジロ	留鳥					
33			アオジ	冬鳥					
34	アトリ	カワラヒワ	留鳥						
35	ハタオリドリ	スズメ	留鳥						
36	ムクドリ	ムクドリ	留鳥						
37	カラス	ハシボソガラス	ハシボソガラス	留鳥					
38			ハシブトガラス	留鳥					
合計	10目	23科	38種	留鳥24種 冬鳥14種	0	6	1	30	22

- ・種の配列等は、「河川水辺の国勢調査のための生物種リスト 平成11年度河川版」（財団法人リバーフロントセンター 2000年）に準拠しました。
- ・渡り区分は、「徳島県鳥類目録」（日本野鳥の会徳島県支部 1988年）を参考としました。
- ・繁殖については、確認された行動を明記しました。S:さえずり,K:警戒行動



水域で採餌をするカンムリカイツブリ



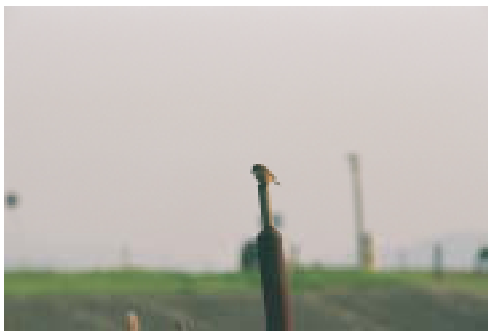
水域で採餌をするアオサギ



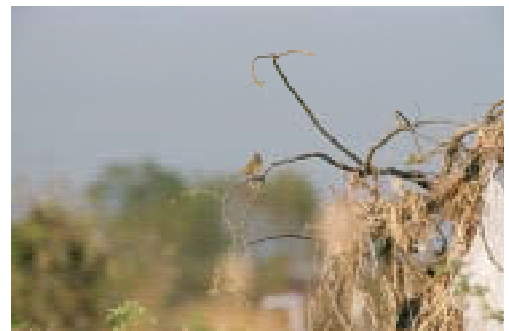
水際を採餌するイソシギ



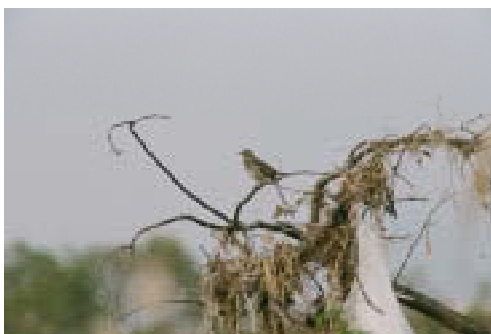
堰上で採餌するキセキレイ



耕作機械上で休息するモズ



枝先で休息するアオジ



枝先で休息するツグミ



草地で休息するホオジロ

b)小動物調査（哺乳類）

冬期調査の結果、下表に示す3目4科5種の哺乳類を確認しました。なお、特定種は確認されませんでした。

哺乳類の確認状況

綱	目	科	種
哺乳類	モグラ	モグラ	モグラ属の一種
	ネズミ	ネズミ	アカネズミ
			ドブネズミ
	ネコ	イヌ	タヌキ
		イタチ	イタチ属の一種
1 綱	3 目	4 科	5 種

小動物の生体、あるいは生息痕の確認箇所は草地、管理用道路部が中心でした。フィールドサインの確認としては、イタチ属の一種の足跡が多く見られたほか、イタチ属の一種の巣、タヌキの足跡が管理用道路部の周辺、多数地点で確認されました。

樹林部では、ラットトラップではアカネズミが捕獲されましたが、このほかは広葉樹林の林縁部でモグラ属の一種の坑道跡、ドブネズミの足跡がわずかに確認された程度でした。

環境区分	小動物の生体・生息痕の確認状況
ヤナギ林	アカネズミ（ラットトラップ）
広葉樹林	アカネズミ（ラットトラップ）
草地	モグラ属の一種
その他	管理用道路、広葉樹林の林縁：モグラ属の一種、イタチ属の一種、タヌキ、ドブネズミ



捕獲されたアカネズミ（計測後放逐）



イタチ属の一種の巣穴